

インターネット政策懇談会(第5回) プレゼンテーション資料

# インターネット政策に関する考え方

2008年6月27日

情報通信ネットワーク産業協会

専務理事 資宗 克行

# 目次

---

1. CIAJについて
2. 現状認識
3. インターネット政策について
4. 検討アジェンダについて
5. まとめ

# 1. CIAJについて

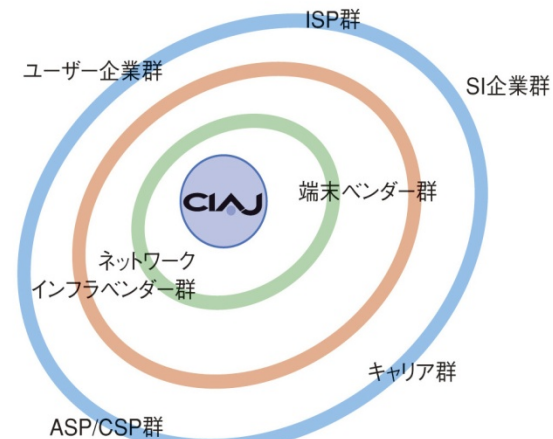
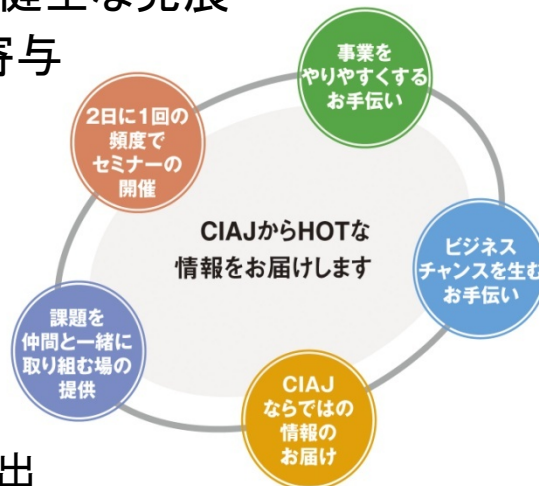
- 名称: 情報通信ネットワーク産業協会 (旧・通信機械工業会)  
Communications and Information network Association of Japan
- 概要: 1948年、端末ベンダー/ネットワークインフラベンダーを主体に設立  
2002年、SI企業、ユーザー企業、ISP/ASP/CSP企業を会員に加え、  
団体名称を「情報通信ネットワーク産業協会」に改称し、現在に至る。
- 会員数: 309社・団体 (2008年5月15日現在)

## ■ 設立目的:

- 情報通信ネットワーク産業の健全な発展
- 情報利用の拡大・高度化に寄与  
することで豊かな国民生活の  
実現と国際社会への貢献

## ■ 主な活動:

- システム・サービスの普及促進、  
高度利用醸成
- 事業環境の改善・事業機会の創出
- 社会・経済・文化の情報利用の拡大・高度化 他

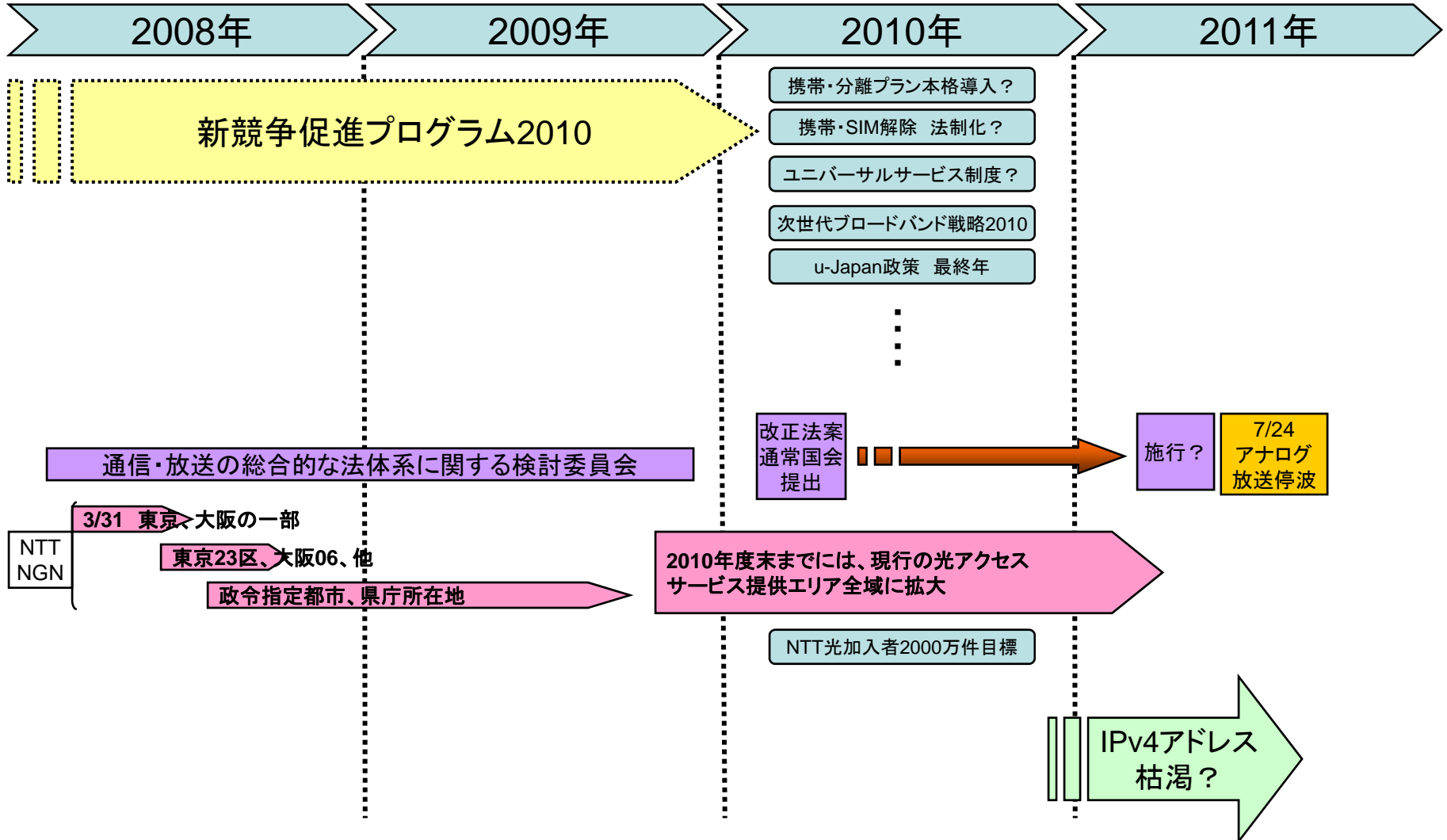


SI : System Integration  
 ISP : Internet Services Provider  
 ASP : Application Service Provider  
 CSP : Contents Service Provider

<http://www.ciaj.or.jp>

## 2. 現状認識 (1/2)

『今』は、2010年・2011年頃の大変革に向けた準備として、重要な時期。

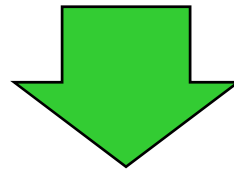


## 2. 現状認識(2/2)

◆2010年に起りうる変化の一部と「インターネット政策懇談会」の検討  
アジェンダの一部は、強く関連。

- ・次世代ブロードバンド戦略2010⇔「ネットワーク利用の公平性」
- ・ユニバーサルサービス制度の変更⇔アクセス網の多様化
- ・通信と放送の融合⇔新しいビジネスモデルに対応した競争ルールのあり方

◆本懇談会の目的である「インターネット政策の展開における全体的なロードマップを描くこと」は、2010年、2011年頃の「大変革の前後」にどのような政策を行うか議論することに等しいと認識



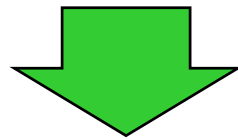
そのためには...

我が国の情報通信政策全般を見渡す必要あり

### 3. インターネット政策について

インターネット政策は、非常に対象範囲が広い

- ◆情報活用力、情報判断力、ITリテラシーとの関連もあり教育分野との連携も必要
- ◆光の部分（ネットワーク利活用の促進等）への対応と影の部分（有害サイトへの対応等）への対応のバランス確保が必要
- ◆ネットワーク利用に適正な対価が払われ、通信事業者がネットワークの拡大や高度化に向けた投資をし、ベンダーも発展するという好循環を目指した仕組みづくりの検討が必要



常に大局的な視点が国民レベルで必要

# ■ 携帯電話のインターネットアクセス実態について

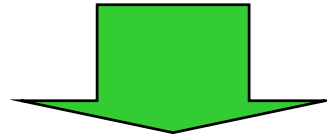
<参考>「CIAJ携帯電話利用実態調査」より

## ◆ インターネット利用

- ・携帯電話による1週間あたりの平均的なインターネットにアクセスする回数は、10回以上が52.4%。
- ・年代別でも「10代男性」「20代男性」「10代女性」が10回以上に多く占めている。
- ・経年変化でも、10回以上は過去3年で、28.9%⇒34.1%⇒53.4%と年々増加している。

## ◆ メール利用

- ・携帯電話による1週間あたりの平均的なメール回数は、10回以上が74.7%。
- ・年代別では、「100回～」で特に多いのは、「10代男性」「10代女性」「20代女性」となっている
- ・経年変化でも、メール利用回答者は、前年の82.8%から91.3%と、利用が拡大している。



**携帯電話はインターネットアクセスのデバイスとして重要かつ不可欠**

- ・1週間で10回以上利用する率は、既に50%を超え、年々拡大
- ・90%以上のユーザーはメール利用、若年層は利用回数も格段に多い

\* 携帯電話について、昨今の一部の不適切な使用実態をもって、全体を規制する方向は、慎重を期すべきである。

\* 有害と無害の線引きが重要だが、課題も多く、継続的検討が必要。

## 4. 検討アジェンダについて(1/3)

### ヘビーユーザーの議論について(アジェンダp.3)

- ①「ヘビーである」か「ヘビーではない」ではなく、ユーザーがネットワークをストレス無く使える技術、制度の検討が必要
- ②ICTの利活用を抑制するような方向ではなく、「健全に発展」させることが肝要(ヘビーユーザーを悪者にしない)
- ③インターネットのビジネス構造は、電気・ガス・水道等と比較して複雑で、「登場人物」(ISP/コンテンツ事業者/インフラ提供者/ユーザー)が多い。登場人物間のコスト負担の公平性が必要



## 4. 検討アジェンダについて(2/3)

### ネットワークの選択について(アジェンダp.4)

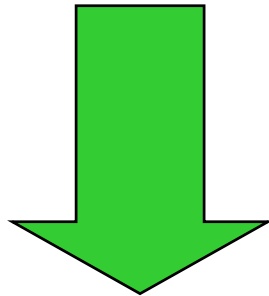
「利用者がアクセス網を経由して次世代ネットワークとインターネットを自らの選択によって自由に経路選択してコンテンツ・アプリケーションにアクセスできる環境」の実現は重要。

- ◆その際、利用者保護のために次の事項を利用端末上での明示などが必要。
  - ①利用者がどのネットワークを使用しているか
  - ②どのような課金状態にあるか
  
- ◆また、所要の環境整備を図るには、次の検討が必要。
  - ③規制は必要最小限に
  - ④違法・有害サイトへの対処
  - ⑤特定のネットワーク等への負荷集中を回避する技術開発

## 4. 検討アジェンダについて(3/3)

### ■ IPv6への円滑な移行について

「インターネットの円滑なIPv6移行に関する調査研究会報告書(最終案)」では、2008年から2012年までのアクションプランが示されている。



アクションプラン全体図

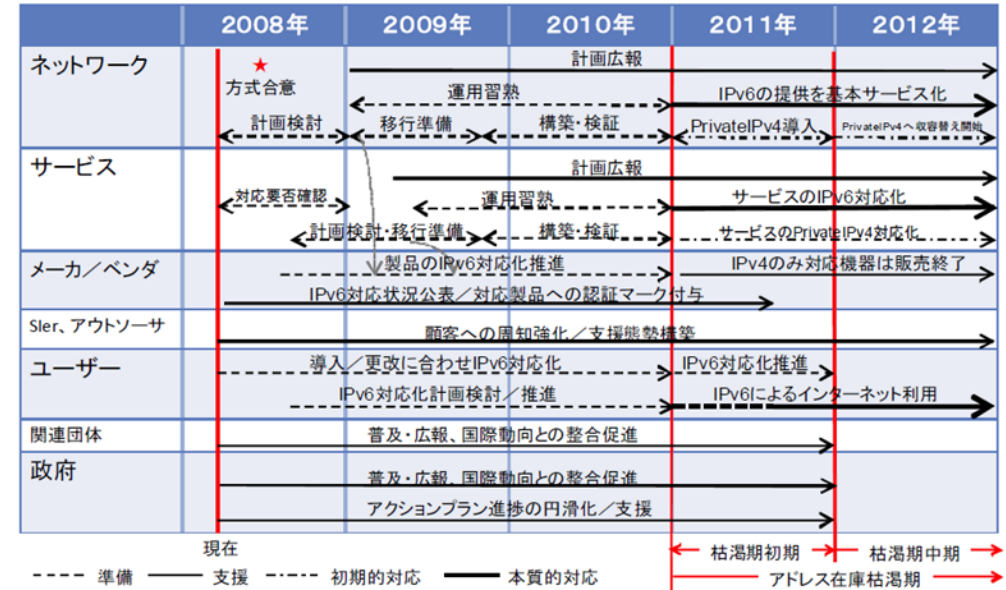


図 5-1 アクションプラン全体図

(インターネットの円滑なIPv6移行に関する調査研究会報告書(最終案) p43)

2011年からは、「IPv6の提供を基本サービス化」、「IPv4のみ対応機器は販売終了」等の記載があるが、以下の点には継続的な配慮が必要。

- ① IPv4からIPv6へのスムーズな移行と、併存することによる利用者混乱の回避
- ② 当事者間(ネットワーク・サービス・ベンダ・Sier・ユーザー・政府など)の情報共有と連携

## 5. まとめ

- “インターネット政策”とは、2010年頃の大変革の前後にどのような政策を行うかを議論することと認識。  
⇒我が国の情報通信政策全般を見渡す必要あり。
- “インターネット政策”は、対象が非常に広範囲に及ぶ。  
⇒常に大局的な視点が必要。
- 大局的な視点は「官民」双方に必要であり、官民の役割分担の明確化と国民への説明が必要。